

## 第7回射水市学校部活動在り方検討会 議事録

### 1 会議

期 日：令和6年5月28日（火）15：30～17：15

場 所：射水市役所会議室202

出席者：

- （委員） 金谷会長（教育長）、京角副会長、寺島委員、加藤委員、  
筏井委員、金委員、中澤委員、岡山委員、山田委員、浅村委員、  
古城委員、浦島委員
- （事務局） 久々江教育委員会事務局長  
星野事務局次長兼生涯学習・スポーツ課長  
六渡事務局次長  
佐藤学校教育課長  
酒井副主幹、川渕係長、稲田主査、道上主任（学校教育課）  
鳥本課長補佐、青木主任、岡本主事、  
小林スポーツ推進コーディネーター（生涯学習・スポーツ課）  
谷口専務理事、京角事務局長、小田主事  
（（公財）射水市スポーツ協会）

### 2 概要

- ・開会のあいさつ（金谷教育長）
  - ・委員と事務局の紹介
  - ・会長、副会長の選任
  - ・議事進行（金谷会長）
  - ・報告事項
    - （1）地域部活動の満足度について（3月アンケートより）
    - （2）令和6年度 地域部活動の状況について
    - （3）令和6年度 新規モデル3部活動について
  - ・協議事項
    - （1）地域部活動の現状と見通し
- 【委員からの意見等】**

（委員）

子どもたちの選択肢が増えることは大事であり、現状の部活動にない種目  
が取り上げられ活動できるようになることはよい。部活動の地域移行を進め  
ていく上で、学校側として活動場所の提供が必要となってくるが、利用調整  
や取りまとめを担う事務局のような役割が必要である。また、子どもたちに

もっと地域クラブの情報提供をしていくべきと考える。

(事務局)

受け皿となるクラブを増やしていくことを相談している。ただし、取りまとの調整役を教育委員会が担うことは難しい。

(委員)

令和8年度で完全に学校部活動はなくなるのか。

(事務局)

平日は地域移行しないので残る。ただし、平日も含めた移行を検討していく時期と考えている。

(委員)

野球指導者は地域移行に興味を持っている。しかし、中体連の大会など大会出場の縛りがあると話が進まない。連携を図り、進めていってほしい。

(委員)

日本中体連が決定したことを県及び市中体連が行っている。大会参加の要件緩和について、県及び市中体連が連携し要望している。

(委員)

地域で頑張っている子どもを支援することが大事である。

(委員)

バスケットボール競技では大会に参加できるのはクラブのみになり、中学校のバスケ部が大会に出場できなくなった経緯を説明願いたい。

(委員)

将来を見据え、総合的に判断した結果、地域に部活動を移行していくために地域クラブ（地域部活動）の参加のみにした。学校部活動入部の際には保護者の方に説明している。

(委員)

学校部活動では大会に参加できないため、モチベーションが上がらないという声をきく。

(委員)

地域部活動で大会出場することができる。地域部活動への参加を呼びかけたい。

(事務局)

部活動の地域移行には、今後生徒数が減り、学校部活動が成り立たなくなるだろうという背景もある。今はその過渡期のためご迷惑をおかけする場合もあるかもしれない。

(委員)

学校として、バスケットボール競技はクラブへの加入を進めていく認識でよいか。

(委員)

平日の活動もあるので学校部活動を選択肢の一つとして残している。将来的にどうしていくべきか検討しなければならない。

(事務局)

保護者の送迎問題により、地域部活動に参加できない場合があるかもしれない。

(委員)

新湊地区では乗り合わせの取り組みが行われると聞く。現状の部活動でも送迎は保護者が行っているケースが多い。地域部活動に代わっても同じことではないか。保護者は、実績があるクラブの指導者であれば安心だが、その他の外部指導者では不安が大きい。今後、地域移行を拡大していく上で、指導者の監視体制はどうしていくのか。

(事務局)

指導者資格を取得している方などをクラブとして認定し、お知らせすることになるだろう。ただ、一方で資格取得を必須とするとハードルが高くなり、指導者が確保できない課題もある。

(委員)

子どもの安全確保は、地域移行よりも大切であり指導者の選定は難しい。マイナースポーツが今後縮小し、選択の幅が狭くなる可能性もある。

(事務局)

指導者確保について課題として認識している。早急に対応していく。

(委員)

総合型地域スポーツクラブとして、スポーツする人と教える人をマッチさせることが仕事。チャンピオンをめざしたり、スポーツに親しんだりそれぞれのレベルにあわせることができる。経験があるので協力していく。また、地域部活動の移動手段として、コミュニティバスの活用も検討すればどうか。

(委員)

県の地域移行の会議に参加した。内容は各市町村から「人」、「お金」、「活動場所」がないという報告であった。指導者確保の策として「パスネットととやま」というスポーツ・文化芸術分野の指導者登録の取組についての紹介があった。また、小学校5・6年生の保護者は部活動の地域移行について知らない方も多いと感じた。

(委員)

これまでの全員部活動加入制は、生徒指導や人間性の育成に大きな役割を果たしてきた。国の方針は学校部活動を地域に移行していくことであり、まずは保護者が理解する必要がある。地域移行を進めるにあたり保護者の意向もくみ取り、子どもの満足度も高めるなど全てを網羅するのは難しいと考え

る。子どもにもっと信頼を寄せ、子どもたちは部活動にこだわらず自由にのびのび放課後を過ごせばよい。美術では写生大会での指導などで子どもたちと活動した実績がある。

(会長)

部活動の地域移行について、理解を深めてもらうために中学生だけではなく、小学生にも広く情報発信していく必要がある。

(委員)

吹奏楽では市内に199人の部員がいるため、1か所集中型での地域移行は会場の広さなどを考えると難しい。各学校への派遣型も学校のセキュリティなどの課題がある。吹奏楽においては分散型で会場が確保さえできれば、社会人バンドなど教えたい方はたくさんいるので力になっていただければと思う。

#### ・その他

今後のスケジュールや次回の会議予定等について説明。